

AO・HANI

Social Welfare Organization Since 1991 Nara City Japan

2010 November 63号



あおはにのしごと クラフト班特集

生活支援部より

お化粧講習会を開催して
オータムレクリエーション

連載コラム:支援スタッフの声

理事長メッセージ:泣きっ面にハチのちハチ面に泣きか

地域便り:ジョブコーチの現場より

自然学校通信

あおはにのじぶと

クラフト班特集

ものづくりの原点

作り、オリジナル商品や外部からの生産委託商品を流通させています。

クラフト班は青葉仁会創業当初からあった班です。榎原理事長の「ものづくりによる発達支援を行うには、市場にふつうに出せる商品が必要」という思いから、紙漉きは材料に高級和紙に使われる雁皮を使用しているほか、縫製では株式会社モンベルの不用になったフリースの端切れを使ってぬいぐるみを作成し、再生品としてモンベルで販売するという画期的な取り組みを行っています。

クラフト班の特徴は作業の工程がたくさんあること。人によって、どのような作業をまかせられるか、トライ＆エラーの支援が行える点にあります。やってみせ、トライしてもいい、離れて見守り、できたことを一緒に確認しているうちに、いつの間にか、利用者がその作業ができるようになっていくという不思議な班なのです。まずは「毎日クラフトに行く」ことから始め、無理せず個人のペースをみていく支援もあれば、ものづくりの厳しさを伝える場面もあります。そんななかで、利

クラフト班近況

用者はいきいきと作業に取り組んでいます。これには、製品の需要がある＝仕事があるということが前提になります。紙漉きでは1日1500枚のはがきを作りますが、これは製品が流通しているからこそ。売れなければ、作る必然性が薄れ、作業の量が減り、支援が減ることにつながります。そこで、支援員は販売にも積極的に動いています。

今年4月に入ってこられた利用者も、難しい作業が行えるようになった方や、時間はかかっているが、着実に成長されている方がおられ、クラフト班の一員として定着されてきています。

去る9月17日には、初めての保護者参観が行われました。ハーブクラブで行われた懇親会では保護者の要望や意見を聞く機会が得られ、有意義なものになりました。今後とも定期的に開催予定です。

作業ばかりしているわけではありません。仕事・余暇ともに楽しむクラフト班。外出企画として、クラフト班の商品を取り扱ってい



頼れる責任者 本田主任



クラフト班の責任者である本田主任がクラフト工房にいて、利用者は大変熱心に働いています。本人は「暗黙のプレッシャーですが、本田主任が怒っているようなところを誰も見たことがありません。本田主任の仕事に取り組む姿勢が利用者に伝わるのでしょうか。」

本田主任は、大学で福祉を専攻し、萌あおはにができるときに青葉仁会に入職しました。青葉仁会にきてから社会福祉士資格をとったほど勉強家の一面や、スノーボードでジャンプばかりしている、やんちゃなところもある支援者です。「これからは後輩の職員も、利用者も、よりいっそうやりがいのもてる誇りのある仕事を提供したい」と静かな中に情熱をこめて語る本田主任は、あおはにでは、「仕事面では本田に任せておけば大丈夫」と信頼されています。

ただいている桜井市の「マジックマレット」に行き、自分たちの作ったものがどのように販売されているかを見学したり、赤目四十



春日大社にて

八滝や長谷寺などへも出かけます。支援者は、このようなときには利用者と話す時間をたくさん取るよう心がけています。

ハーブクラブ

自転車道の駅ハーブクラブ がオープンしました

10月16日に自転車のための道の駅・ハーブクラブがオープンしました。大和高原を走るサイクリストのために、休憩や飲み物・食



オープニングセレモニーのようす



サイクリストのみなさん



サインする右京さん

事がとれる場所、飲み水の補給が出来る場所として、奈良県・京都府では初めての自転車道の駅・オープンでした。

軒先に木製の自転車ハンガーを設置し、マウンテンバイクなど泥まみれになった自転車やメンテナンス工具のレンタルも完備しています。

オープニングセレモニーには、地域自治会長やモンベル社辰野勇会長、元F1レーサー片山右京氏、奈良県土木部、道路交通環境課などからの来賓や、各地からのサイクリストがたくさん集まってきました。お天気に恵まれた楽しい1日となりました。当日記帳されたサイクリストは70名余りでした。

製パン

美味しい米粉パン さらに新しい拠点が登場。



あおはに米粉パンを売っている店が増えました。奈良市東向南町の県女性センターの一角「KIZUNA Cafe ぎずなふえ」。営業は午前11時から午後8時まで、月曜定休です。ぜひお越し下さい。

製菓

やる気いっぱい



Nさんは主にウサギ

ボーロを作っています。最近生地の出来具合や焼き加減をとても気にされ、売上にも関心が湧いてきました。仕事を任せましたが、とてもいい感じにやる気につながりました。これからが楽しみです。

セントラルキッチン

一般就労を目指し、 実習に励んでいます。

利用者のMさんは多機能型事業所デリカテッセン イーハートヴにきて1年半がたちます。

作業は主にスパイス計量を行っています。が、今回王寺町役場で実習を行いました。9月20日には町で2000人のイベントがあり、受付を頑張りました。最初は緊張して、連絡を忘れたりしたものの、働くのは楽し

木工

みんなで力をあわせて



積水ハウスのノベルティグッズとしてセキスィハウスのSHAWOODシリーズの端材を使って記念品を作る仕事を行いました。鍋敷きが2000個、携帯ストラップが6000個という大量の商品を木工班で力を合わせ仕上げました。作業がなかなかできなかつたSさんも機械を使えるようになり、木工班の戦力として頑張っています。

冬ギフト&お正月むけの品々のカタログができました



お正月むけの品々



ウインターギフト



実習の様子

かったそうです。今後はスーパのバックヤードの実習が待っています。一般就労できる日が楽しみです。

お化粧講習会を開催して

生活支援部スタッフ 中瀬古麻有



毎年恒例のお化粧講習会を資生堂様のご協力のもと今年も開催させて頂いて頂きました。私が、青葉仁会で生活支援スタッフとして働かせてい

者の方々の表情を見させていただくことができました。最初は、恥ずかしがっていた方も多くおられました。少しずつメイクを施すことで鏡に映る自分の顔がいつもとはまた違い、メイク一つで更に輝きが増す、綺麗になれるという女性としての喜びを感じていただけたのではないかと感じます。その証拠に、最初は硬かった表情も、徐々にほぐれ、自然と笑顔がこぼれていました。

ただいて約半年が過ぎますが、その中で一大イベントの一つであるお化粧講習会の企画・進行に携わるといった機会をいただきました。当日までは、講習会のイメージがなかなかつかないため不安や戸惑いもありましたが、開催する中で、普段とはまた違った女性利用

普段、なかなかお化粧をする機会のない女性利用者の方々も、この講習会をきっかけにメイクの楽しさや意欲を持つていただき、普段の生活の中でも自然と取り入れていただければと思います。そのためのステップとしても、このお化粧講習会を今後も更に発展させながら継続して開催していきたいです。



行って来ました～



連載コラム 支援スタッフの声

笑顔でつながる 青葉仁会

山出 哲史 平成21年9月入職

昨年9月、榊原理事長にご縁をいただき、青葉仁会で働き始めてから早1年が経ちました。



最初は、自分などで大丈夫なのかと不安もありましたが、振り返ると、かつてこれほど充実した1年はありません。

でした。たくさんの方々との出会い、多くのことを学び、経験しました。日々、戸惑うこと、悩むこと、迷うことの連続でしたが、それ以上にいろいろな場面で利用者が見せる笑顔に魅了されました。既に、何度か笑顔で私の夢に出てきた方もあります。糸賀一雄さんが『この子らを世の光に』といわれましたが、本当に名言だと思います。

青葉仁会にも素晴らしい理念があります。『幸福の平等』です。障がい者福祉を取り巻く環境は大きく変化しています。法律や制度がどのようになっていくのか予断を許さない、こんな時にこそ利用者、ご家族、職員、地域の方々、青葉仁会を支援してくださる方々が笑顔でつながれる取り組みをしていきたいと考えています。皆さんと幸せなときを共有できるということです。



奈良のスケッチ展 岩田重義

2010年11月27日～12月5日

モンベル京都駅前店

イオンモールKYOTO Sakura館3F

営業時間 10:00～21:00

2011年岩田重義カレンダー販売
青葉仁会 利用者の絵画も展示

泣きつ面にハチのちハチ面に泣きか



青葉仁会理事長 柿原典俊

人生とは何かに追われながら生きていくことかもしれない。先人の残した、「川の流れば絶えずして」、「馬の口とらえて老いを迎うるも」、「夏の蟬の春秋を知らぬもあるぞかし」との思いは、百代を経てもお日本人の心に深く染み込んでいる。著に見れば、いにしえより、流れに、老いに、季節に、そしてはかなく、常に何かに追われながらあらがいようもなく人は生きてきたのかもしれない。

前回の会報に「自転車ブーム」を書いてホツとしたのも束の間、もう次の原稿の催促がきて追われている。大袈裟な出だしのわりには、追われ方ひとつにしても先人に比べると、何と他愛のない人生を送っていることだろう。凡人とは、自らの大いなる癒しの中で生きている人のことかもしれない。だからもう何も悩む必要はないのだ。

会報も2カ月毎の発行では原稿を書くのが大変だ。ささやかに3ヶ月毎への延長を提案した。しかし、こだわりのために新鮮なニュースに固執する部長に、本末転倒と一刺されてしまった。まさか否決されるとは、余裕で油断していたから締め切り日は過ぎていた。で、さらに追われる羽目に陥ってしまった。「ハチの「刺し」古い言葉だがそれは忘れた頃に蘇り、リアルにフレッシュな感覚を残して次の機会へと飛び去っていく。追われ苦闘していると言えば大袈裟だ

ろうか、障害者福祉の利用者と現場は、コロコロと変わる国の制度改革への対応に追われている。それは、救済原理の「措置制度」から、利用者の選択本位の「支援費制度」、そして持続可能で財政本位の「障害者自立支援法」と変わってきた。それらの法改正は、わずか数年の間に起こったことだ。そしてまた、この度の政権交代により、障害者を福祉の主体から権利の主体とする「障害者総合福祉法」に変わろうとしている。今や、障害者福祉の利用者や家族と福祉現場は、あまりにも短兵急に行われる法改正に追われて、右往左往するメダカの群れとなつてしまった。

障害者自立支援法は、障害者福祉の根幹にかかわる多くの問題を含んでいた。これでは必要な支援を受けられないと、障害者や家族、福祉現場は決起し東奮西走した。その結果、自立支援法の抜本的改正案にまでこぎ着けたが、衆議院の解散によってあえなく廃案となつてしまった。続いて障害者本人の国家訴訟などによりたどり着いた自立支援法の一部改正法案は、鳩山首相退陣による審議未了で行方知れずとなつてしまった。いったん決まった法を変えることは、それはとても大変なことだが、いずれも法改正の寸前まで行きながらのごとく頓挫してしまつた。しかし二度も修正案が国会に上程されたこと事態が、法そのもの

の不合理性を示していることを忘れてはならない。そして今回、民主党の肝いりで新たな障害者総合福祉法として法制化するべく進められている。しかしこの新たな福祉法は、身体障害の権利を主張する自立生活を主に検討が進められている。しかし、支援がなければ自己判断において自立生活することの難しい知的障害のある人達は、また更なるピンチに陥つてしまった。まさに泣きつ面にハチ、という状況続きだ。

改革をけつして否定しない。変化なしに成長のないことは承知している。しかしここまで短兵急に、根こそぎな改革が繰り返されると、いったい日本の障害者福祉の何が問題であつて、そのことへの危機感がどこにある、だからこう変わらねばならないというところがまったく見えてこない。いたずらに場当たり的な改革を繰り返すだけでは、更に混沌とした危機に落ち込んでいく他はない。特に社会的弱者の改革は、その生活実態を基に改革を進めなければ、もう既に後がない状態で生きている人達が沢山いる。そして、それは単に障害者というマイノリティの問題だけではない。そこには親、兄弟という家族があつてそれら多くの人達も巻き込まざるを得ない、そうなければつしてマイノリティの問題としてとどまらないことを忘れてはならない。

ああでも、こうでもないことばかり思つて

いるからだろうか、自転車で快走しているとヘルメットに何かがカッンと当たつた。それは瞬時に頬にへばり付いて、あろうことかサングラスの中に潜り込んできた。おもわず反射的に目を閉じたが瞬時に激痛が走り、みるみると顔面が腫れ上がり目が塞がついていく。道行く人には転倒による顔面強打で腫れ上がりついているように見えたことだろう。やがて救急車が来たが自転車と一緒に乗せられないと言う。一心同体で走りようのない自転車を見捨てて、とても自分だけが助けを求める気にはなれない。思わず「私はいいから自転車を頼む」と苦しい息の下から告げる他はなかった。

病院で点滴を受けて時を過ごし出けると、救急入り口のフェンスに盗難防止の温かい心遣いか、自転車は嚴重に縛られ、隙つけ獄門にふさがれていた。傷心の自転車とふたりフラフラと門を走り出て、ホッと病院を振り返つたとたん、あまりにもホツとし過ぎたのだろう、そのまま転倒してしまつた。痛む手に開いた傷口から溢れ出した血が「行く川の流れば絶えずして」さらさらと流れ落ちていく。まさに茫然自失、思わず「泣きつ面にハチ」と嘆いてしまつたが、それは間違つていた。ハチに顔面を刺されたのが先だから、これは「ハチつ面に泣き」なのだ。

地域便り

ジョブコーチの現場より

土井奈美 ジョブコーチ担当



当会では平成15年より一般企業に就職される方に対するジョブコーチ事業（1号職場適応援助者）を奈良障害者職業センターと連携して行っております。

当会の特徴として、就労移行支援からジョブコーチ支援を利用している就職、離職者の移行支援事業での受け入れ、ケアホームの利用など、総合法人としてトータルにその方の支援できるということがあげられます。

平成22年、7月1日から障害者雇用促進法の一部が改正されたため、奈良でも障害者雇用枠が増えつつありますが、まだまだ、狭き門であることに違いはありません。

働く上で企業さんが重要視されるのは、作業の能率はちろんなので

【支援先企業例】

業 種	本人従事作業
飲食業	洗い場・食品工場
製造業	工場ライン
サービス業	リネン業・ホテル厨房(洗い場)
量販店	品だし・清掃
福祉業	清掃・介護補助

ですが、挨拶、提出物、整容面などのマナー、報告・連絡・相談など社会人としての心構えの部分です。社会人としてのマナーは日常の場面に密着しています。だからこそ、子どもの頃からの普段の家庭や学校、福祉現場でのやりとりこそが、社会進出への第一歩になるのだと実感しております。

私がジョブコーチ支援を始めて今年で4年目！ 10月も当会ジョブコーチ支援を利用して就職を目指される方が2名おられ、今後も企業就労を目指す方の手助けになればと考えております。

自然学校通信

今年植えたそばを収穫しました。
この冬はみんなで食べてみたい。



自然学校では日々屋外での作業が多いためか、利用者全員とても元気です。10月に入り、めつきり朝夕が寒くなった袖ノ川ですが、体調不良を起こす利用者もなく、元気に働いています。

今年はそばを植えました。秋に収穫し、ただいま乾燥中です。夏は、作業の合間に流しそうめんをしました。この冬はみんなで作ったそばを食べてみたい。冬のための薪づくりも順調に進んでいます。

青葉仁会をご支援くださった方々

【会員】

1 □ 周木孝治 衣畑晴之
高橋朋宏 福野有倫
福野裕子 西勇夫
寿久美子 稲葉忠温
3 □ 藤原 剛 信太三吉

【寄附】

3 千円 畑慶子 21万円以上
1 万円 辻井半次郎 あおはにチャリティーゴルフ
50万円以上
小崎敏雄 前田哲男
10万円以上
光専寺

※ご支援ありがとうございました。
心から御礼申し上げます。